(別紙1)

修業年限（標準修業年限）を超えて在学している理由書

学 部 等	学 部 研究科 <small>(修士・博士前期・博士・博士後期・専門職)</small>	フリガナ	
		氏 名	
入 学	【学部】 年 月	学籍番号	
入 学	【修士／博士前期／専門職】 年 月	休学期間	年 月 ～ 年 月
入(進)学	【博士／博士後期】 年 月	休学理由	
理 由			
担当教員 所 見			
職 名		氏 名	

- (注) 1. 理由欄は、修業年限（標準修業年限）を超えて在学している理由にその期間等を明記して、記入にあたっての注意事項を参照の上、具体的かつ簡潔に記入してください。
2. 担当教員所見欄は、学生委員又はこれに代る教員が記入してください。
3. 氏名欄は、自署（又は記名押印）願います。

【修業年限（標準修業年限）を超えて在学している理由書の、「理由欄」記入にあたっての注意事項】

○授業料免除申請における、修業年限を超えて在学していることが認められる（一年間に限る）特別な理由は、以下を参考にしてください。特別な理由に該当する場合には、本様式を提出することができます。提出する場合は理由欄にその期間等を明記して、具体的かつ簡潔に、丁寧な字で記入してください。

→→ → 令和2年度後期の神戸大学授業料免除申請に限り、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度前期の卒業又は修了に支障を来し、令和2年度後期に引き続き修業年限を超えて在学せざるを得ない学生に対し、一年間に限り認めている修業年限超過の原則によらず、特別措置を講じます。この特別措置の適用を受けようとする場合、必ず事前に問い合わせてください。（「修業年限を超えて在学している理由書（別紙1）」の理由欄に当該事項を記入のうえ、提出が必要です）

※学部学生においては、神戸大学教学規則第41条 休学の許可による休学（一年以内に限る）であることが前提条件となります。（※ 医学部医学科は在籍6年（72ヵ月）、その他の学部は在籍4年（48ヵ月）を超えた後の休学はこの前提条件に該当しません。例：医学部医学科以外の学部学生が、在籍5年目（49ヵ月目）に前期半年間を休学し、後期から復学した場合、復学した後期の授業料免除の申請資格はありません）

※以下の例を参考に、長文である必要はありませんので、自分の言葉で具体的かつ簡潔に記入してください。

○特別な理由として認められる主な例（学部・大学院共通）

- ・病気等（出産・育児を含む）のため休学した場合
- ・単位修得試験の時期に病気入院したため、単位修得ができなかった場合
- ・外国へ留学した場合
（ここでいう留学とは、語学留学を含め、外国の学校等での修学を指し、6か月未満の留学の場合を除きます）
（理由欄に留学について記入する場合は、留学期間および留学先の学校名、留学で学んだ内容等を必ず添えてください。休学を伴った留学では、休学期間欄や休学理由欄に記入した内容との整合性も確認してください）
- ・風水害等の災害を受けたため、若しくは主たる家計支持者の不在（死亡・行方不明等）や長期療養のため、学業と平行して学資獲得のための長時間に及ぶアルバイトや常勤の業に就いたことが一因の場合
- ・生活保護世帯のため、学業と平行して学資獲得のためのアルバイト又は常勤の業に就いたことが一因の場合
- ・身体障害者であるため、学業を継続するうえで負担が大きく、このことが一因である場合

○特別な理由として認められる主な例（大学院のみ）

- ・膨大な資料収集・解析が必要な研究テーマに取り組んでいることから、論文作成に時間を要する場合
- ・高度な最先端技術の研究に取り組んでいることなどから、研究結果に不確かな部分が多く、研究期間を延長することにより、良好な研究結果が望める場合
- ・実験等のデータが研究テーマの方針どおりのものとならないことから、研究テーマの変更をしたために論文作成が遅延している場合

○特別な理由として認められない例

- ・就職活動等
- ・ボランティア（※但し、学長が特に認めた大規模災害等（東日本大震災・熊本地震）における、長期に渡るボランティア活動の場合は特例として認められることがあります）